

県民のあゆみ

山形県広報誌



- P.3 県民の皆さまへ
- P.4 特集
- P.8 奏であう人
- P.16 やまがた伝説

新型コロナウイルス感染症関連情報
県民みんなで結婚・子育てを応援
～社会全体で取り組む子育てに温かい環境づくり～
山形のものづくりに新しい息吹、未来への取組み
発酵食品文化

「やまがた縁結びたい」が取り持つ
縁で結ばれた加藤さんファミリー。
県では出会いから結婚、妊娠・出
産、子育てまで幅広い支援を行っ
ています。
(撮影協力:山形市児童遊戯施設
べにっこひろば)

新型コロナウイルス感染予防に取り組みましょう！

全国で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっています。感染拡大を抑えるために、引き続き、

マスクの着用やこまめな手洗い **身体的距離の確保** **3つの密の回避**

など基本的な感染対策を実践していただくとともに、**感染リスクが高まる「5つの場面」**※に注意しましょう。

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面①

飲酒を伴う懇親会等



場面②

大人数や長時間におよぶ飲食



場面③ マスクなしでの会話



場面④ 狭い空間での共同生活



場面⑤ 居場所の切り替わり



※ 政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会で、これまでのクラスター（小規模な感染集団）事例を分析して感染リスクが高まる5つの場面について取りまとめたもの。

冬季における換気・保湿のポイント

冬は暖房のために窓を閉め切ることが多く、乾燥しやすい季節です。感染予防のため、これまで以上にこまめな換気を心がけるとともに、保湿にも気を付けてください。

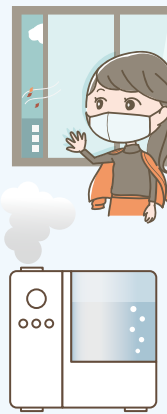
寒い環境でも換気の実施

- 機械換気による常時換気を心がけてください。
- 機械換気が設置されていない場合は、室温が下がらない範囲で常時窓を開けておきましょう。

（窓を少し開け、室温は18℃以上を目安に）

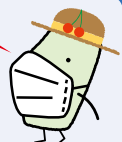
湿度40%以上を目安に、適度に保湿

- 換気しながら加湿も忘れずに。（加湿器の使用や洗濯物の室内干し）
- こまめな拭き掃除を。



STOP! コロナ差別!

感染した人やその家族、職場関係者、医療従事者などへの心無い言動やSNSへの書き込み、差別や偏見、いじめ等は決して行わないようにお願いします。



県民の皆さまへ

県民の命と健康を守るために新型コロナと闘う医療従事者の皆さま、県民生活を支える保育・介護等の福祉事業者の皆さま、県内の経済・社会活動を支える皆さま、感染拡大防止にご協力いただいている全ての県民・事業者の皆さま、本当にありがとうございます。

県民一丸となって、この難局を乗り越えましょう！

▶ 問い合わせ ◎ 健康福祉企画課 ☎023-630-2292

山形 コロナポータル

後援

県政できごと ア・ラ・カ・ル・ト à la carte



à la carte
1

県民生活をより便利に、より豊かに、より幸せに

「Yamagata 幸せデジタル化」有識者会議（令和2年9月23日、10月20日、11月5日 山形市）

新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、社会のあらゆる分野でデジタル化が急速に進んでいます。県内でも、自治体の手続きのほか、産業や介護・医療・福祉等の各分野でのデジタル化を通して、県民の皆さんが幸せに暮らせるように、国内外の有識者の方々による会議を開催し、「Yamagata 幸せデジタル化構想」に向けた提案をいただきました。今後は、構想の実現に向けて、県民の誰もが取り残されることなくデジタル化の恩恵を受けられるように取組みを進めていきます。



オンラインで行われた有識者会議の様子

à la carte
2

コロナ禍の県内を山形県応援ソングで元気に

「Ku-Wa de MOMPE（くわとモンペ）」のお二人が来庁（令和2年11月9日 山形市）

とんねるずの石橋貴明さんと鮭川村出身のテレビ演出家マッコイ齊藤さんの音楽ユニット「Ku-Wa de MOMPE」の楽曲「Stranger to the city」は、最上りバー、さくらんぼなど山形のキーワードが盛り込まれた山形県応援ソング。YouTubeでの再生回数は182万回※を超え、インターネットを中心に大人気です。この日、楽曲を通して本県の魅力を世界に発信いただいた功績に対して、知事からお二人に感謝状を贈呈しました。県では、この曲を活用して山形を盛り上げていきます。



モンペ氏（マッコイさん）

くわ氏（石橋さん）

※ 令和2年12月1日時点の累計数

à la carte
3

「やまがた創生」実現に向け、また一歩前進！

日本海沿岸東北自動車道「酒田みなとIC～遊佐比子IC」間が開通（令和2年12月13日）

この日、県民が待ち望んだ酒田みなとIC～遊佐比子IC間5.5kmが開通し、高速道路が遊佐町まで達しました。日本海沿岸東北自動車道の整備により、国道7号の津波規制区間を回避した信頼性の高い道路ネットワークが形成され、物流効率化による地域産業の振興、環鳥海エリアへのアクセス性向上による広域観光の振興など、庄内地域の経済活性化や交流人口の拡大が期待されます。県では、引き続き、高速道路網の早期完成に向け、全力で取り組んでいきます。



写真提供：国土交通省 酒田河川国道事務所

特集 県民みんなで結婚・子育てを応援 ～社会全体で取り組む子育てに温かい環境づくり～



子どもは、いつの時代においても社会の宝です。県では、誰もが安心して子どもを生み、育てることができる社会実現のために、あらゆる世代が「山形での子育て」に関わり、応援する取り組みを進めています。

「子育てするなら山形県」 を取り巻く現状

県では「やまがた子育て応援プラン」を策定し、山形県に生まれた子どもたちが健やかで心豊かに成長できるように、子育て支援を進めています。しかし、結婚観・家庭観の変化による未婚化・晩婚化の進行や、経済的負担の増大による不安感等を理由に少子化が止まらない状況です。未婚者の意識に目を向けると、その75%以上が結婚に対して意欲的な一方で、独身でいる理由として、男女ともに半数以上が「出会いがないこと」をあげています。そのため、これまで以上に、一人ひとりの出会いや結婚の希望がかなえられる環境づくりと支援が求められています。

未婚者の結婚に対する考え

	いずれは結婚するつもりだ
18～49歳未婚者	75.3%
男性	76.0%
女性	74.2%

独身でいる理由

30～40代未婚者	適当な相手にめぐり合わない	異性とうまく付き合えない	結婚資金が足りない
男性	53.3%	23.2%	14.1%
女性	64.5%	30.6%	16.1%

出典：山形県「平成30年度県政アンケート」

結婚・育児についての県民の意識

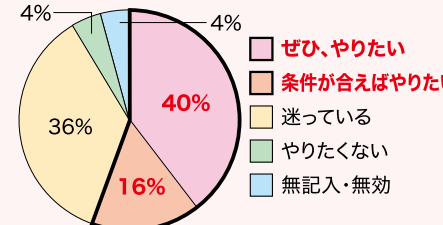
これから結婚・子育てというライフステージを迎える若年層の結婚・子どもへの意識は、ともに「分からない」が2割以上となっており、まだまだ自分事として捉えられていないことがうかがえます。また、子育てを終えたシニア層は、子育てで支援ボランティア活動に対して、半数以上が「ぜひ、やりたい」「条件が合えばやりたい」と考えています。このような方々の気持ちを実際の活動に結びつけ、地域の「子育て応援団」を増やしていくことで、安心して子育てできる環境づくりを進めていく必要があります。

若者の結婚・子どもへの意識

	結婚	子ども
したい	67.8%	63.2%
したくない	9.7%	10.2%
分からない	21.8%	25.9%
無回答・無効	0.7%	0.7%

出典：学生向けライフデザインセミナーアンケート（令和元年）

シニア世代の子育て支援ボランティアへの意向



出典：シニア層ボランティア意識アンケート調査（令和2年）

県では、若年層からシニア層とあらゆる世代が子育てに関心を持ち、支える社会を目指しています。今回はその中から、新たな取り組みをご紹介します。

（1）身近なお店が出会いを応援！

県内に五千店以上あり、誰もが定期的に訪れる理容店・美容室。県では今年度から、理・美容店の皆さんが協力を得て、出会いを求めているお客様が最初の一步を踏み出すための後押しをする取り組みを始めました。普段からの身近なお付き合いの中でサポートは大きな力になります。

理・美容店の皆さん、出会いのほの応援し隊に登録して出会いを求めているお客様を応援しませんか。

出会いほのぼの応援し隊

①申込み
②登録・ハラスメント対策の説明
③出会いや結婚に関する情報を提供

【登録した美容室の声】
出会いや結婚を望んでいるお客様に情報を提供して、背中を押してあげたいと思っています。一生懸命応援します。（有）ペガ【山形市】

【お客様の声】
出会いサポートセンターを知ることができました。センターへの登録を考えたいと思います。

やまがた出会いサポートセンター
〒990-0043 山形市本町 2-4-18
ニースビル2階
☎ 023-615-8755
FAX: 023-665-5498 詳細は→

（2）若者の結婚・家庭観を醸成

少子化が進み、若い世代が目指すお手本となる子育て世帯が減少しています。普段の生活で結婚や子育てを身近に感じる機会が減っていることが、未婚化・晩婚化や出産へのためらいにつながっていると考えられます。今後は、若者に、自らの人生を設計する上で、早い段階で主体的に結婚・子育てを意識してもらう必要があります。

そのきっかけとするため、今年度新たに、若者自らが、中高生・同世代に向け、山形での結婚や出産、子育て、ワーク・ライフ・バランスについて考える動画を制作しました。

動画「やまがた暮らし」制作者の声

山形の良さに「気づき」、理想を「築く」というコンセプトのもと、山形でのリアルな暮らしをインタビュー動画として制作しました。同世代の皆さんにぜひご覧いただき、「自分ゴト」として山形での暮らしを考えてもらえればと思います！

東北芸術工科大学
デザイン工学部
企画構想学科
片岡英彦ゼミの皆さん

完成した動画は県公式YouTubeチャンネル「やまがたChannel」で配信中！

（3）シニア層も子育てを応援！

子育てへのシニア層の関わりは、子育て支援の担い手確保だけでなく、多様な人との交流による子どもたちの心豊かな育ちが期待できます。子育て世代にも、地域の「子育て応援団」が増えることは安心感につながる利点もあります。

子育てボランティアに興味のあるシニア層と子育て支援団体をつなぐために、双方のニーズを調査しました。調査結果に基づき両者のマッチングを進めるとともに、意欲のあるシニア層向けにボランティアに必要な知識を伝える研修会を行っています。

やまがた他孫(たまご)育て講座

昨年12月、県内4地域5か所で、子育て支援ボランティアに役立つ、最近の子育て事情や子どもへの接し方などを学ぶ講座を開催しました。参加者からは「『できる人ができる時にできることを行う、それがボランティア』だと学び、自分でもやれるという自信につながった」、「パパママが安心して子育てできるよう手助けしたい」等の感想がありました。子育て支援ボランティアに興味がある方は、子育て支援課にお問い合わせください。

やまがた結婚応援事業のご紹介

結婚したお二人に祝福のメッセージと県産品を贈り、新生活を応援します。

贈呈品 県産米(つや姫・雪若丸各2kg)
県産品カタログギフト

対象 令和2年11月1日から令和3年3月末までに山形県内の市町村窓口婚姻届を提出した県内在住のご夫婦

◎詳しくは やまがた結婚応援事業

山形ウェディング協議会と連携して結婚応援動画を作りました。こちら→

ぜひご覧ください！

県政テレビ番組
いき☆いきやまがた
放送のご案内

「県民みんなで結婚・子育てを応援」と題して県内民放4局で特別番組(30分)を放送します。

山形放送(YBC)
●1月10日(日)午後3時55分～

さくらんぼテレビ(SAY)
●1月17日(日)午後4時～

テレビユー山形(TUY)
●1月24日(日)午後4時～

山形テレビ(YTS)
●1月30日(土)午後3時25分～

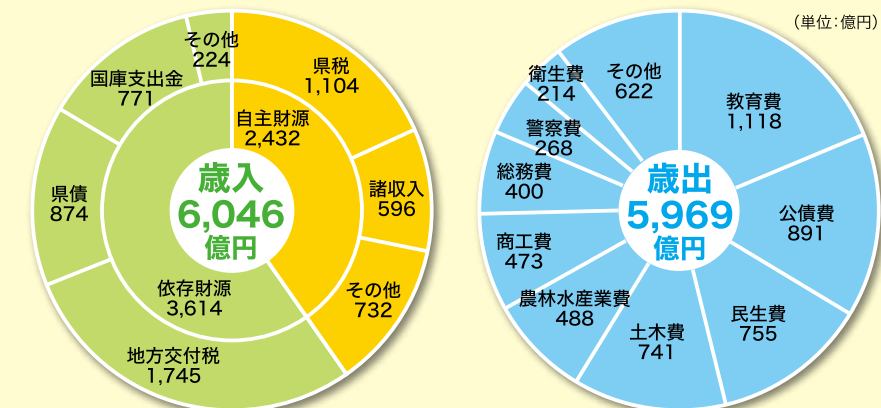
放送時間は変更になる場合があります。

▶問い合わせ ◎ 子育て支援課 ☎023-630-2668

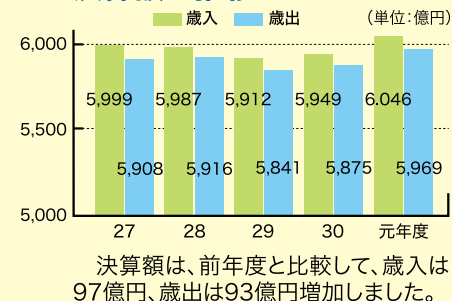
令和元年度の決算がまとまりました

一般会計

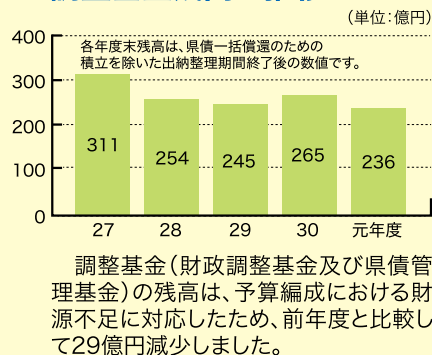
一般会計の決算額は、歳入が6,046億3,528万円、歳出が5,968億5,173万円で、歳入歳出差引額（形式収支）は77億8,355万円の黒字となりました。歳入歳出差引額から翌年度へ繰り越す事業に充てる財源を控除した実質収支は、49億7,485万円の黒字となりました。



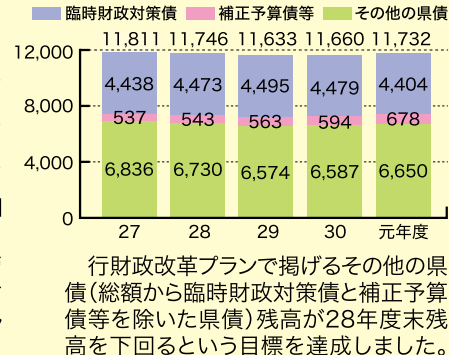
決算額の推移



調整基金残高の推移



県債残高の推移



令和元年度の主な取組み

やまがた創生の拡大・加速

- 「自然と文明が調和した新理想郷山形」の実現に向けて①県民総活躍、②産業イノベーション、③若者の希望実現、④健康安心社会、⑤県土強靱化を県政運営の基盤として「やまがた創生」を拡大・加速
- 多様な人材の育成・確保、県民所得・生産性の向上と人手不足の解消、災害対応力の強化や消費税率の引上げへの対応など、直面する諸課題に対応

公営企業会計

総収益は134億438万円、総費用は93億4,561万円で、純利益は前年度比14.1%増の40億5,878万円となりました。

これは、台風による影響で10月の降水量が多かったことや暖冬による早期融雪などで水力発電量が増加し、電気事業の料金収入が増加したことなどによるものです。

各会計別の決算の状況

項目	電気事業	工業用水道事業	公営企業資産運用事業	水道用水供給事業	合計
総収益	6,204	569	147	6,484	13,404
総費用	3,035	433	115	5,762	9,346
純利益 (対前年度増減率)	3,169 (8.5%)	136 (22.5%)	31 (△45.6%)	722 (54.5%)	4,059 (14.1%)

病院事業会計

総収益は400億9,000万円、総費用が401億9,900万円で、総収支は1億900万円の純損失となりました。

平成25年度以降7期連続の経常損失となり、厳しい経営状況にあります。

県立病院の決算の状況

項目	中央病院	新庄病院	河北病院	こころの医療センター	本局	合計
総収益	24,650	8,717	3,376	3,109	238	40,090
総費用	23,855	8,792	4,150	3,105	297	40,199
総収支	795	△75	△774	4	△59	△109

平成25年度以降の経常収支の推移

項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
経常収支	△501	△1,032	△1,951	△1,866	△324	△926	△444

※経常収支＝総収支－特別損益

※単位未満を四捨五入しているため、合計や差し引きが一致しないことがあります。

▶問い合わせ

一般会計	会計局会計課……………☎023-630-2716	※調整基金、県債については総務部財政課……………☎023-630-2044
公営企業会計	企業局総務企画課……………☎023-630-2735	病院事業会計 病院事業局県立病院課……………☎023-630-3104

杉沢比山(遊佐町)

黒川能(鶴岡市)

林家舞楽(河北町)

山形県の民俗芸能を次世代へ！

民俗芸能とは

私たちが暮らす地域に古くから受け継がれてきた、祭りや伝統行事の中で行われる歌や踊りです。プロの舞台芸能と違い、開催日時や場所が決まっており、地域の人々によって演じられ、「お祝いのためのもの」や「災いや穢れ^{けが}を追い払うもの」等に分類されます。県内には、国から文化財指定を受けている3つの芸能(上の写真)をはじめ、田植踊やシシ踊り、農村歌舞伎など100を超えるものが現存します。



地域の絆と個性を育む民俗芸能



●人と人とをつなぎます！

◎祭りや伝統行事には、多くの人々の関わりが不可欠です。

◎行事の練習等を通して「大人と子ども」「親と親」「子どもと子ども」など、多くのつながりが生まれ、地域の絆を深めます。

◎民俗芸能で培われた絆が地域社会を支えてきました。

●人を育てます！

◎祭りや伝統行事への関わりを通して、地域に伝わる信仰や歴史を学ぶとともに、地元への誇りと愛着を育みます。

◎礼儀作法やしきたりに触れ、自然への畏れ^{おそ}など先人の考え方を知ることが私たちの視野を広げます。



民俗芸能を取り巻く課題

少子高齢化や人口減少により、民俗芸能の後継者や祭り等の担い手の確保が年々困難になっています。そして、これらの課題は、それぞれの地域や民俗芸能団体だけで解決することが難しくなっています。

県では、地域の宝である民俗芸能が将来にわたり継承されるよう取組みを行っています。

課題解決を図るための基盤づくりや情報交換を行うためのネットワークづくりを進めています。

民俗芸能団体懇話会

県では平成23年度から民俗芸能団体に対し、ネットワークづくりにむけた働きかけを行っています。現在、最上・置賜地域では、地域の民俗芸能団体同士が主体の懇話会組織が立ち上がっており、継続して情報交換が行われています。

さらに、最上地域では、独自にフェスティバルを企画し、毎年11月にゆめりあ特設ステージ(新庄市)で開催しています。



最上地区民俗芸能団体懇話会
会長 中川 昭弘 さん
(川ノ内囃子保存会会長)
芸能分野が違って、団体同士で懇親を深め、連携を図っています。何百年も続いてきた文化を絶やさぬよう、世代を超えて力を合わせ、継承活動を進めていきます。

団体の継承意欲の後押しと、皆さんに地域の文化に関心をもっていただけるよう、発表の場を設けています。

ふるさと芸能のつどい

平成26年度から、山形市七日町大通りを会場に、民俗芸能を中心とした団体を県内4地域から招き、特色ある芸能の発表を行っていただいています。多くの人に見てもらうことで、それぞれの技にも、より一層磨きがかかります。

民俗芸能に限らず、皆さんの地域にどのような文化が伝承されているか、知っていますか？

QRコードから、山形の伝統文化をぜひご覧ください。



皆さん、地元や県内各地のお祭り等に足を運び、実際に民俗芸能に触れてみてください。そして、本県の特色ある文化を次の世代につないでいきましょう！

▶問い合わせ ☎ 文化振興・文化財課 ☎023-630-3341

県内の民俗芸能の詳細はこちら→



撮影場所：(株)金龍 遊佐蒸溜所



奏であう人

かな

vol.58

おか だ しお ね 岡田 汐音 さん

平成6年生まれ、北海道出身、酒田市在住。(株)金龍 製造課・遊佐蒸溜所勤務。山形大学理学部卒業後、2018年入社。大学で学んだ専門を生かし、糖化・発酵工程に携わるほか、広報・デザイン、営業・来客対応を担当する。

まつ もと しん かず 松本 晋一 さん

昭和45年生まれ、千葉県出身、東京都在住。(株)IBUKI 代表取締役社長。2014年、河北町にある(株)IBUKI(旧安田製作所)の経営に参画。2018年には第7回ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞「ものづくり+企業」部門を受賞。鶴岡工業高等専門学校 特別講師、東北芸術工科大学 特別研究員も務める。

さい とう み ほ 齋藤 美帆 さん

平成6年生まれ、酒田市出身、酒田市在住。(株)金龍 製造課・遊佐蒸溜所勤務。山形大学農学部卒業後、2017年入社。入社半年後から当時は構想段階だった蒸留所開設準備室に配属される。現在、主に蒸留工程を担当し、糖化・発酵工程もサポートする。

keyword

山形のものづくりに新しい息吹、未来への取組み

伝統の技術とAI(人工知能)を生かし、製造業に新たな価値と可能性を吹き込む松本さん、山形初のウイスキーづくりにゼロから挑戦する岡田さん、齋藤さんに、山形でのものづくりについてお話をお聞きました。



高級ガラスのような透明度と質感を実現した極薄で割れない、メイド・イン・ヤマガタの樹脂製ビアグラス。IBUKIが創業以来80年培ってきた金型の設計・製造技術が生かされている。

製造業向けコンサルティング、設計者育成をはじめとする技術支援、社会に役立つAI※の導入など、製造業を中心に先進的な取組みを進めてきた松本さん。

河北町の歴史ある金型メーカーのIBUKIに経営参画し、経営改革と金型のブランド化を実践。業績不振に困窮する同社に大復活劇をもたらし、経済産業省の「地域未来牽引企業」にも選定されました。

「現在は、山形県やそれ以外の地域に、売上100億円企業を45社作り出すことを目標に、地元企業経営者ジュニアを対象とした経営塾の開催などを行っています」。

※Artificial Intelligence(人工知能)の略。人間のように知的な処理能力を持つ情報システム。

製造業の支援と
山形県のものづくりへの貢献

松本さんはこうも言います。

「金型は山形県の伝統工芸品だと思っています。その存在を継続させて将来につないでいくストーリーを作ることが自分の役目だと考えています」。

未経験の女性二人から
始まったウイスキーづくり

一方、遊佐蒸溜所で全く経験のないウイスキーづくりを任せられることになった齋藤さんと岡田さん。

特に齋藤さんは、金龍の会社説明会に参加したときは、まだ同社がウイスキー事業に参入することを知らなかったと話します。

「地元で、食品関係の仕事に関わりたいと思っていました。酒づくりはおもしろそうだと興味があつたものの、ウイスキーをつくる話を初めて聞かされたのは入社当日でした」。

焼酎とウイスキーは共に蒸留酒であるため、これまで培ってきた酒造技術が生かされたのかと思いきや、同社の佐々木雅晴社長は、ウイスキーへの敬意を込めて、あえて焼酎づくりの職人ではなく、未経験者によるウイ



遊佐町の田園風景の中に建つ蒸留所。背景には、ウイスキーづくりに欠かせない豊富な伏流水をもたらす烏海山の風景が広がる。貯蔵庫の地下にも水脈が通り、熟成に必要な湿度を保つ。

キーづくりを決意されたと言います。蒸留所開設前の準備段階から関わった齋藤さんが話を続けます。

「何をどう始めてよいか誰も分からなかったため、ウイスキーの本場スコットランドの設備メーカーから技術のレクチャーを受けました。すべて英語なので通訳を通し、分からないところは教本を読み、少しずつ覚えながら自分たちのづくり方を決めていきました」。

齋藤さんの1年後に入社した岡田さんは、大学進学のため山形に来て、自分の世界が広がったと言います。

「知る人のいない土地で、一から人間関係を築き、また新たな趣味もできました。その経験から、新たにチャレンジしていく楽しさがあるウイスキー事業に魅力を感じ、この地に残ることを決めました」。

伝統と先進技術、
アナログとデジタルの融合

二人の話に耳を傾けていた松本さんが口を開きます。

「お二人とも、先入観がそもそもなかったこともあり、変化を嫌がない姿勢が素晴らしいですね」。

私がIBUKIで行った最も大きな経営改革を一つだけあげるなら、変化を日常化し楽しむこと、変化を当たり前前に受け入れるという社員の意識改革です」。

松本さんは、後継者不足で技術の継承が難しくなっている、各地の伝統工芸などの熟達者の思考や技術をAIで見える化し、社会全体で広く

活用できる取組みを進めています。

また、昨年10月には、山形県内11高校の生徒が部活動として参加してAIを学ぶ「やまがたAI部」運営コンソーシアム(共同事業体)を発足させ、その代表に就きました。

「産学官および金融機関が参加し、奨学金制度を設けるなど、AI関連の人材育成を目的に設立しました。すでにこのコロナ禍のなかでもオンラインでの講義が始まっています。今後は、育成した人材が地元企業で活躍できる仕組みもつくっていきます」と松本さん。



IBUKI社屋前に集合した「やまがたAI部」に参加する高校生。山形県、山形市、鶴岡市、酒田市、山形大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大学のほか、県内企業、金融機関などが運営に関わる。

さらにこう続けます。

「長い伝統を持つ優れた技術の継承と、AIを生かした効率化、つまりアナログとデジタルの融合がこれからのものづくりには不可欠です」。



◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について
◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について
◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について
◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について

◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について
◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について
◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について
◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について

◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について
◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について
◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について
◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について	◆令和元年度の県政運営の評価について

決算審査の概要

新年のごあいさつ
皆様には、輝かしい新春を健やかに迎え、
のことと謹んでお慶び申し上げます。
県議会では、新型コロナウイルス対策の更なる強化と
災害に強い県土づくりを促進し、県民の皆様の
安全・安心な暮らしを守る
ために全力で取り組ん
でまいりますので、引き
続きご理解とご協力を賜
りますようお願い申し上
げます。



金澤 忠一 議長

決 議

現在、新型コロナウイルス感染症は、全国的に急速な感染拡大が進んでおり、本県においても11月から感染者が急増しています。その中であって、県民は、感染拡大の防止に細心の注意を払いながら、社会経済活動の両立に向け、懸命に取り組んでいます。

こうした状況の下、感染者やその家族、学校や勤務先等に対しSNS等の媒体による匿名での心ない誹謗中傷や、間違った情報の拡散、感染症に対する不安や恐れから感染者や感染経路を詮索する事例などが発生していることは憂慮すべきことです。

これらの行為は、偏見による不当な差別であり、人権擁護の観点からも看過できません。また、コロナ禍を契機として、山形県民が永い間培ってきた「思いやり」や「やさしさ」という美しい文化を失ってしまうことは、大きな損失であり、何としても防がなければなりません。

新型コロナウイルスは、気づかないうちに誰もが感染する可能性があります。今、私たちが行うべきことは、感染防止策の徹底であって感染者を誹謗中傷することではありません。医療・福祉従事者をはじめ多くの方々が困難な状況の中で頑張っています。今こそ、私たち一人ひとりが、共に支え合うことが何よりも大切なことです。

よって、本県議会は、誹謗中傷の根絶を目指すとともに、新型コロナの諸課題に真摯に取り組んでまいりますので、県民の皆さまにおかれまして、共に支え合いながら、この困難を乗り越えてまいりましょう。

**誹謗中傷をなくし共に支え合う
ことにより新型コロナウイルス感染症の
克服を目指す決議**



決議案を説明する加賀議会運営委員長

先ほど、変化することの大切さを話しましたが、変化を厭（いと）わない者からイノベーションは起きていきます。ですから、変化に柔軟な、特に女性と若者を社会変革の原点にしようと考え、”未来は君たちのものだから君たちがつくりよう”と呼びかけています。

松本さんの言葉に岡田さんがうなずきます。

「ウイスキーの製造過程でもコンピュータで自動制御するなどデジタル化されている部分があります。理想の温度やテイステイングはやはりアナログな人の手や舌でコントロールしていくことが不可欠です。

また、ウイスキーづくりを女性が担当しているのは世界でも珍しいことです。私たちと同じ世代の女性がウイスキーに興味を持ち、親しむきっかけになればと思います。

原酒を3年間寝かせ、2022年春頃の国内・海外同時発売を目標にしています。熟成具合で早まるか遅れるか、はつきりしていません。ただ、国内にクラフトウイスキーの蒸留所が50か所以上あるなかで、2位を争う味との高い評価もいただ



世界が憧れる山形初のジャパニーズウイスキーを目指し、2018年に最初に製造された記念すべき「0001」番の原酒から、現在は約1500本の樽が眠りにつき、販売のときを静かに待っている。

ものづくりへのこだわりと 技術者の喜び、誇りを

岡田さんが話す山形初となるウイスキーづくりに、これからの山形のものづくりの可能性を見る松本さん。
「手を抜かず手間暇かけ、心を砕きながらものづくりに向き合う姿勢を持ち続けることが、企業や商品の価値を高めていきます。今後のものづくりにおいて、これが何より大切だと改めて実感します」。

岡田さんが応えます。

「山形は、北海道出身の私でも身も凍るような厳寒の冬や、昼夜の寒暖差が激しい夏に代表されるくつきりとした四季があり、名峰から流れ出る清らかな伏流水や県土を覆う豊かな森林など自然に恵まれた土地だと思います。そのような風土が、ものづくりへの真面目さ、妥協を許さない品質へのこだわりを育んで来たのかもしれません。」

最後に松本さんは、大きな話題となった自社の樹脂製ビアグラスを開発・販売した理由を明かしてくれました。
「我が社の金型は、製造業のお客様の部品を作るためのものであり、普段、一般の人の目に触れることはありません。そこで、IBUKIの優れた樹脂成形技術を生かし、『私たちがつくっているものはこれです』と形に表すことで、社員に技術者としての誇りと喜びを感じてほしかったのです。今後は、社内に限らずものづくりに関わるすべての人が、仕事で好きで、喜び合える機会を作りたい、やりがいを感じ合える舞台を用意したいと考えています」。



山形県総合文化芸術館
オープニング事業

山形交響楽団
定期演奏会情報

 プロスポーツゲーム情報

県民のあゆみ 1月号 12



やまがた 伝説 DENSETSU

なっとう しょうゆ むしゅ は
健康に良い発酵食品の代表選手
山形にも多くの地場産業が!?



納豆、醤油、味噌、酢、パン、チーズ、ヨーグルト、日本酒、ビール、ワイン…これらはすべて発酵食品です。キムチや三五八漬けなど漬物にも発酵を伴うものがあります。発酵は、菌と呼ばれる微生物の力で食材をさまざまに変化させ、豊かな栄養や旨味、甘味、酸味、アルコール分などをつくり出します。長期保存できるようになるのも利点の一つです。冬が長く、食料の乏しかった山形では、多くの発酵食品が伝統的な食文化として受け継がれています。



身近にたくさんあって
口にすることも多い
発酵食品ってなに?



日本三大納豆菌
メーカーの
一つが山形に
あるんだって!

発酵食品の代表格といえば納豆。ひっぱりうどん、納豆汁など山形の郷土料理にも欠かせません。腸の働きを整えるほか、死亡リスクを低下させる効果も報告されています。納豆は大豆を納豆菌で発酵させてつくります。この納豆菌を製造・販売する会社は日本に3社しかなく、その一つが山形市にある昭和10年創業の有限会社高橋祐蔵研究所です。そのためか、山形県には納豆メーカーが20社以上もあり、年間支出金額では山形市が全国4位※で常に上位です。
※ 総務省2019年家計調査 1世帯当たりの納豆購入額（県庁所在地）

醤油、味噌は、大豆を原料に麹菌、乳酸菌、酵母菌などによってつくられます。どちらも、山形県民が大好きなラーメンやそば、芋煮、玉こんにゃく、だしなどに幅広く使われています。県内メーカーの数も多く、それだけ地元の味として醤油・味噌に小さい頃から慣れ親しんでいると言えます。また、酒づくりも山形県の伝統的な発酵文化です。山形県の日本酒、ワインのレベルは国内トップクラスで、近年は海外でも高い評価を得ています。

※「みそ醸造」「しょうゆ醸造」の登録件数推移(2005年～2014年)「出典:タウンページデータベース」



人口10万人当たりの
醤油蔵の数は全国3位、
味噌蔵の数は日本一なんだ!※



山形県に多い
発酵食品は、
適量を心がけて
毎日摂ることが
大切です。

発酵食品についてお話を聞きました
きたばやし まき こ
北林 蒔子 さん
やまがたけいりつよねざわえいようだいがく きょうじゅ
山形県立米沢栄養大学 教授

発酵食品が持っている菌は、腸内環境を整えるうえでとても大事なものです。免疫力を高めたり、不安や緊張、ストレスを抑える効果もあると言われています。塩分の摂り過ぎに気を付けながら、毎日の生活に取り入れましょう。

